

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02373

研究課題名(和文)古代寺院における「伝」と「像」の制作活動 - 長安と平城京の諸寺院間ネットワーク -

研究課題名(英文)The production of statues and biography at early Japanese Buddhist temples: the cultural network between temples in Chang'an and Heijokyo

研究代表者

藏中 しのぶ (KURANAKA, SHINOBU)

大東文化大学・外国語学部・教授

研究者番号：40215041

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本古代に「伝記」というジャンルはない。「伝」は氏族内の墓誌・墓碑に始まり、『続日本紀』官人薨卒伝に展開するが、人物描写を伴う詳細な「伝」は、大安寺の渡来僧の「碑文」体の高僧伝に始まる。師僧が亡くなると、弟子僧は師の「肖像」と「賛」を制作し、その「序」に伝記を記して「碑文」とした。古代の伝を通時的に三期区分 近江朝、天平期=官大寺「大安寺三碑」成立、平安初期=空海以降の《讚の文学》し、共時的には天平期の造寺造仏活動との関連を指摘し、さらに中近世以降のさまざまな「賛」を視野に入れて『南総里見八犬伝』口絵賛を「伝・賛と肖像」の集大成と位置づけ、東アジアの伝・賛と肖像の文化史を構想するに至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

八世紀後半、「肖像」に対する「碑文」の「賛」として成立した日本の伝記文学は「伝・賛と肖像」の遡源であった。平安朝以降、題画文学と「賛」は空海と嵯峨天皇周辺で融合し、中世の禅と五山文学、同朋衆の「座の文芸」の場を経由して、禅宗史伝の祖師頂相や変化菩薩の画賛等、新たな「伝・賛と肖像」を生みだす。この禅のメカニズムは古代に遡る。近世には俳画・摺物・茶掛・版本挿絵等、文学と絵画資料の表現と理解が緊密に連繋し、『南総里見八犬伝』口絵賛に至って集大成を遂げる。仏教を軸に《東アジアの伝・賛と肖像》の日本学を出典論と翻訳・翻案論を表裏一体の方法論とし、ジャンルを越えたクロスメディア論を国際・学際的に展開する。

研究成果の概要(英文)：Japanese biographies developed from gravestone inscriptions to the obituaries of high officials found in the Shoku Nihongi, but detailed accounts began with the epitaphs of Daian-ji temple high monks who had travelled to Japan from several regions of Asia. These epitaphs consisted of an epic poem and its introduction with many biographical details, and were produced alongside the high monks' statues by their Japanese disciples. In this research, I aimed at reconstructing the history of the syncretism between biographies, epic poems and visual arts in East Asian cultures by pointing out three stages: 1) the Omi period, 2) the Tenpyo period, and 3) the early Heian period; and by analyzing its relationship with the construction of Buddhist temples and statues in the Tenpyo era. Finally, I analyzed many epic poems of Medieval Japan, and have concluded that the frontispieces of Nanso Satomi Hakkenden are to be considered the best example of this syncretism in Japanese literary history.

研究分野：日本文学

キーワード：賛 碑文 題画 墓誌 碑文 インド 大安寺 鑑真

1. 研究開始当初の背景

- (1) 日本古代の伝の生成基盤：日本の古代文学には、伝記文学というジャンルが存在しない。人物の死没に際して、氏姓・出自・官位等を簡潔に記す原初的な伝は、金石文（墓誌・墓碑等）に発祥した（氏族伝承的漢文伝）。それが国家的な記録として吸収され、『続日本紀』以下の六国史の官人薨卒伝へと展開する（律令的漢文伝）。一方、人物像を詳細にえがきだす詳細な伝記は、渡来僧インド僧菩提遷那・唐僧道璿の伝に始まる。菩提遷那・道璿の伝は平城京の大安寺で、唐僧鑑真の伝は唐招提寺で成立した（仏教的漢文伝）。墓誌と官人薨卒伝の密接な関係についてはすでに論じたが、僧侶の墓誌・碑文と『続日本紀』僧伝との関係の詳細については未検討である。
- (2) 日本古代僧伝の文体：インド僧菩提遷那の遷化に際して、大安寺の弟子僧たちは、師僧の「肖像」とこれに対する「碑文」である『南天竺婆羅門僧正碑并序』を制作した。「碑文」は、「肖像」に対する「賛」とその「序」から成り、詳しい伝記は「序」に記される。その出典は体系をなし、『文選』『梁高僧伝』『広弘明集』のほか、玄奘三蔵伝やこれらを類聚編纂した唐・長安の西明寺で成立した道宣・道世編の仏教類書群が一連の出典群を形成する。
- (3) 日本古代僧伝成立の具体相：詳細な伝記叙述をもつ『南天竺婆羅門僧正碑并序』と「鑑真伝三部作」（『大唐伝戒師僧名記』『唐大和上東征伝』『延暦僧録』）さらに正倉院文書・寺院文書から、伝の成立の経緯、具体相をあきらかにする。
- (4) 日本古代の伝の生成史の構築：日本の伝記文学は、原初的な墓誌・墓碑の段階を経て、八世紀後半、平城京の官大寺・大安寺において、外国人仏教僧（渡来僧）の「肖像」に対する「碑文」として成立した。墓誌・墓碑は金石文として研究されてきたために、形状による名称が一般化しており、その文章表現を詳細に出典論によって再検討する必要がある。これによって、古代の伝の生成史を構築するとともに、渡来僧が住し、唐の寺院文化の影響を直接的に受容したであろう官大寺・大安寺と唐招提寺を中心とする平城京の諸寺院間ネットワーク《大安寺文化圏》を軸に、日中の伝記文学の生成とその構造を解明する。
- (5) 結跏趺坐の「肖像」と禅：国宝・鑑真和上像を結跏趺坐の禅の姿とみる拙稿に対して、鑑真の臨終の姿とみる批判があったのでこれに答える。
- (6) 江戸の絵入り版本の「伝」と「肖像」：「伝」と「肖像」の問題を後世から照射するために、広く日本文化における「伝」と「肖像」を視野に入れる。

2. 研究の目的

- (1) 日本古代の伝の生成基盤：寺院の伝：人物の死没に際して、氏族内部では墓誌・墓碑が制作され、その原史料が国家に提出され、『続日本紀』官人薨卒伝に吸収される。一方、氏族に属さず、寺院で生成した仏教的な伝には、どのような特徴があるのか。
- (2) 日本古代僧伝の文体：日本古代の僧伝は、「序」と「銘」から成る漢文体を遵守し、「法統」と「遺囑（遺言）」を重視するが、これは何を意味するのか。
- (3) 日本古代僧伝成立の具体相：『南天竺婆羅門僧正碑并序』の「遺囑」とは、「阿弥陀浄土」像の造像であった。「阿弥陀浄土」の「像」は、正倉院文書にみえる当時の造寺・造仏事業とどのように関係するのか。大安寺文化圏の漢詩文の特質と影響とは何であったか。
- (4) 日本古代の伝の生成史の構築 共時的観点から同時代史料の検討：渡来僧の「伝」に共通する伝記叙述は、どのような構造をもつのか。大伴家持は東大寺大仏開眼会に際して歌を詠まず、沈黙したとされる。大伴家持の文化圏と大安寺文化圏の関係はいかなるものであったか。『日本霊異記』序文および中巻第一縁の聖武天皇像をはじめとする国家観と歴史叙述に、官大寺である大安寺文化圏の仏教思想はどのように働いているのか。
- (5) 結跏趺坐の「肖像」と禅：「道璿碑文」には北宗禅の法統が記載され、『唐大和上東征伝』巻末詩群は「戒」「禅」の対句で構成され、国宝・鑑真和上像は結跏趺坐の姿で造像される。鑑真の「伝」と「肖像」の背後には、禅があるのではないか。
- (6) 江戸の絵入り版本の「伝」と「肖像」：『南総里見八犬伝』において曲亭馬琴が口絵・挿絵に託した「文外の言」のもつ絵と文学の関係の構造とはどのようなものか。『和漢朗詠集』版本は、書と俳諧によって普及したのではないか。『和漢朗詠集』版本の挿絵にも、俳諧の季語を軸とした『南総里見八犬伝』同様、絵と文学の関係の構造がみられるのではないか。

3. 研究の方法

- (1) 日本古代の伝の生成基盤：墓誌・墓碑・碑文の伝としての記載事項に注目し、これを律令官人と僧侶および出家仏教徒に二分して、その内容を分析する。「序」「銘」から成る墓誌、『続日本紀』僧伝、大安寺文化圏で成立した『道璿和上傳纂』所引「道璿碑文」、『南天竺婆羅門僧正碑并序』『大安寺碑文』の伝としての記載事項、文体と出典を考証する。
- (2) 日本古代僧伝の文体：墓誌・墓碑の文体を分析し、「序」「銘」から成る漢文体について検討する。第一に、僧伝が重視する「法統」「遺囑」に注目し、第二に、「大安寺三碑」（「道璿碑文」「南天竺婆羅門僧正碑并序」「大安寺碑文」）をはじめとする「碑文」体の伝について、『文選』『頭陀寺碑文』を出典とする『大安寺碑文』をひとつの基準とし、『文選』『文心雕龍』の文体論

と照らし合わせ、通時的・共時的に同様の表現や構造をもつ例を探索する。

(3) 日本古代の僧伝成立の具体相：『南天竺婆羅門僧正碑并序』の菩提僊那が弟子に託した「遺囑」について、正倉院文書・寺院文書にのこる当時の造寺造仏記録と対照する。

(4) 日本古代の伝の生成史の構築 共時的観点から同時代史料の検討：仏伝・玄奘三蔵伝と敦煌講史文学「唐三蔵哭西天行記」・鑑真伝三部作『大唐伝戒師僧名記』『唐大和上東征伝』『延暦僧録』に共通する伝記叙述を分析し、『渡来僧の運命』を語る主題と論理の構造を解読する。大伴家持の動向と聖武朝の仏教寺院の「伝」と「肖像」の制作活動を対比し、『万葉集』大伴家持詠の用語を「大安寺三碑」をはじめとする聖武朝の仏教的な漢詩文から検証する。『日本霊異記』序文および中巻第一縁の聖武天皇像をはじめとする国家観と歴史叙述の言語表現とそこから読み取られる仏教思想を、「大安寺三碑」をはじめとする奈良朝の仏教的な漢詩文の表現によって検証する。

(5) 結跏趺坐の「肖像」と禪：「道璿碑文」には北宗禪の法統が記載され、国宝・鑑真和上像は結跏趺坐の姿で造像される。『唐大和上東征伝』巻末詩群の「戒」「禪」の対句を踏まえて唐代の禪を視野に入れ、「肖像」の背後に禪がある可能性を追究する。

(6)江戸の絵入り版本の「伝」と「肖像」：『南総里見八犬伝』の口絵に注目し、巻六巻頭口絵「犬坂毛野・女田楽旦開野」「犬村角太郎・雛衣」二図の「肖像」を本文中の「伝」の図像化とみて、「伝」「賛」の言語表現と「肖像」の図像表現を対照し、絵解きの手法で分析する。『和漢朗詠集』絵入り版本二種の「挿絵の素材」と「本文」の対応をおさえ、これと俳諧の季語を類聚編纂した『便船集』『俳諧類船集』の「季語」との対応を検証する。

4. 研究成果

(1) 日本古代の伝の生成基盤：古代の伝の生成基盤を、氏族(墓誌・墓碑)・国家(『続日本紀』官人薨卒伝・僧伝)・寺院(僧伝)に三分類した。「序」と「銘」から成る「碑文」体の伝がその発祥であることが判明したので、古代の伝を通時的に三期区分(近江朝、天平期=官大寺「大安寺三碑」成立、平安初期=空海以降の《讚の文学》)し、共時的には天平期の造寺造仏活動との関連を論じた。日本古代に「伝記」というジャンルが存在しないのは、『文選』『文心雕龍』に伝の部門が立てられず、伝の内容をもつ文章がさまざまな部門に分散されて収載されたためである。「伝記」という文学概念、ジャンルについては、その生成過程を検証し再検討する必要がある。さらに、平安朝以降のさまざまな「伝」「賛」と「肖像」を視野に入れ、『南総里見八犬伝』口絵賛を「伝・賛と肖像」の集大成と位置づけ、『東アジアの伝・賛と肖像の文化史』を構想するに至った。

(2) 日本古代僧伝の文体 「法統」と「遺囑」・「大安寺三碑」の成立：僧侶の墓誌・墓碑と『続日本紀』僧伝の記載事項と表現を分析し、寺院で成立した墓誌「行基大僧正舍利瓶記」と大安寺文化圏の僧伝には、「法統」と師僧が弟子像に託した「遺囑」の内容が具体的に記載されることを指摘し、僧伝の文体の特質とした。注目すべきは「大安寺三碑」である。大安寺文化圏の高僧伝が「序」「銘」から成る「碑文」体の伝として成立したことが確認された。吉備真備撰『道璿和上伝纂』所引「道セン碑文」が碑文であることから、大安寺では15年間に『南天竺婆羅門僧正碑并序』『大安寺碑文』と、三つの碑文が成立したことに注目し、「大安寺三碑」と位置づけた。『文選』『頭陀寺碑文』を典拠とする淡海三船撰『大安寺碑文』がその到達点であり、『文心雕龍』の文体論の影響を想定した。この「賛」を備えた碑文体の「伝」と「肖像」の様式が、大安寺文化圏の核である。この様式は、大安寺僧勤操の伝、空海撰『故僧正勤操大徳影讚并序』に受け継がれ、勤操の「檀像」が制作され、「讚」が付された。一方、長安西明寺の出典群は熊本県「浄水寺南大門碑」に継承されて地方にも伝播することになる。

(3) 日本古代僧伝成立の具体相=菩提僊那と光明皇太后追善事業：『南天竺婆羅門僧正碑并序』が第一の遺言の「阿弥陀浄土」の完成に言及せず沈黙するのは、同じ天平宝字四年(760)に崩御した光明皇太后のふたつの追善事業、平面的二次元で阿弥陀画像を顕現した四十九日齋会、立体的三次元の浄土庭園を造営した一周忌齋会が、菩提僊那の「遺囑」の「阿弥陀浄土」造営と同趣旨であったため、官大寺である大安寺の弟子僧がこの事業に関わり、個人的な菩提僊那の「遺囑」が発展的に吸収されたと考えた。天平期の「阿弥陀浄土」信仰について、大安寺の菩提僊那と光明皇后の造寺・造仏事業との深い関係を論じた。インド・コルカタ総領事館の招聘により、初めてインドを訪問、講演のために『南天竺婆羅門僧正碑并序』を英訳した。インドでは、初めて日本に渡来した菩提僊那に対する関心が非常に高い。鑑真は日中交流の象徴とされるが、インドでは菩提僊那が日印交流の象徴であることを知った。

(4) 日本古代の伝の生成史の構築 共時的観点から同時代史料の検討：伝の説話化：天竺・中国・日本の渡来僧の「伝」に共通する「運命」の伝記叙述を分析し、「予知夢」については仏伝～玄奘伝～『延暦僧録』道璿伝、「観相」については仏伝～玄奘伝～敦煌出土「唐三蔵哭西天行記」という系譜をたどり、高僧として大成する人物の未来を見抜きながらも、それを見届けることができないという仏伝の阿私陀仙の論理が、僧伝と説話において変奏されてゆく過程と説話形成の構造を論じた。『万葉集』と大安寺文化圏：『万葉集』の漢文序にも「大安寺三碑」に共通する概念が見られることを指摘、大安寺三碑や金石文にみられる仏教的な概念は、出典語、翻訳・翻案表現として、奈良時代の文学に浸透しており、それが聖武朝の造寺・造像をはじめとする仏教環境に如実に反映し、『万葉集』の仏教環境を形成していることを論じた。『日本霊異記』と大安寺文化圏：『日本霊異記』序文および中巻第一縁の聖武天皇像をはじめとする国

家観と歴史叙述には、大安寺三碑のひとつ『南天竺婆羅門僧正碑并序』と同じ論理が展開することを指摘し、正倉院文書から知られる聖武朝の写経と勸経を経て、官大寺の僧侶の經典理解と学問体系が醸成され、それが薬師寺僧景戒の撰になる『日本靈異記』にも継承されたことを論じた。

(5) 結跏趺坐の「肖像」と禪：旧稿の『唐大和上東征伝』巻末詩群の「戒」「禪」の対句は、鑑真の仏教の根幹に「戒」「禪」の修行があったことを意味し、日常の結跏趺坐の姿をうつして国宝・鑑真和上像は造像され、その「贊」として『唐大和上東征伝』巻末に詩群が追加された。すなわち、国宝・鑑真和上像の「肖像」に対して、『唐大和上東征伝』は「序」であり、巻末詩群が「贊」の体をなす。「肖像」の背後に禪があるのは、宗派を超えて仏道修行の基本が「戒」「禪」であったためである。

(6) 江戸の絵入り版本の「伝」と「肖像」：『南総里見八犬伝』巻六の口絵と贊「犬坂毛野・女田楽旦開野」の「肖像」について、「伝」が「贊」に要約収斂され、「肖像」に付されるという「伝」本文と「贊」と肖像の緊密な関係を論じた。第一に、口絵の漢詩贊は男姿の犬坂毛野、和歌贊は女姿の旦開野に対応し、本文中の三つの伝を要約する。漢詩贊は、三つの伝、すなわち、毛野の父・粟飯原胤度の冤罪事件の伝記的な語りである 品七の昔物語、毛野の犬田小文吾への告白、

小文吾の称讃に対応し、口絵の漢詩贊へと収斂されていく。第二に、役者絵的な口絵と説明的な挿絵が物語を相互補完する。口絵では、口絵枠の肖像群十九名が役者絵的趣向で千鳥に配され、下半部には十五年前の冤罪事件、上半部には対牛楼の仇討ちの登場人物群が配される。第三に、口絵の「兎」の「兎」字が、冤罪の「冤」、籠山逸東太の「逸」と龍山免太夫の「免」、毛野を擬えた「木兎」に対応する。第四に、女田楽旦開野は傀儡子で、巷間の傀儡師を題材にした竹田近江からくり「船弁慶」の意匠で図像化されている。旦開野が手にもつからくりには、同じ平氏の平知盛の怨霊の怨念が重ねられている。『平家物語』の知将・平知盛は、勇将・能登守平教経に取り替わり、延慶本、能・浄瑠璃を経て長刀をもつ姿となり、傀儡子・竹田近江からくりに取り入れられた。旦開野が手に持つからくりは、『摂津名所図会』『東海道中膝栗毛』に引かれる「船弁慶」の図像化である。第五に、女田楽旦開野の肖像は、浄瑠璃・歌舞伎の「碓知盛」で長唄・河東節・清元の『傀儡師』として展開した図像化であり、第六輯刊行の三年前、文政七年江戸市村座で三代目坂東三津五郎初演の清元『傀儡師』の趣向であり、背景に続く演目「雀踊り」の雀を描く。第六に、これと対になる『八犬伝』犬村角太郎・雑衣の口絵「肖像」とその「伝」である荒芽山の妖怪譚にも、背後に『傀儡師』を含む外記節三部作『傀儡師』『外記猿』『石橋』を響かせてある。また、『和漢朗詠集』絵入り版本二種の挿絵には、俳諧の季語を類聚編纂した『便船集』『俳諧類船集』の「季語」にみえる素材が取りあげられ、図像化されている。『和漢朗詠集』版本が八十数種も版行された背後には俳諧があり、むしろ、『和漢朗詠集』版本の版行が『類船集』増補を促した可能性を検証した。

(7) 《東アジアの伝・贊と肖像の文化史》の構想：「序」と「銘」から成る「碑文」体の伝に発祥した「伝」は仏教の高僧伝であった。第一に、「肖像」に対する「銘」の部分は「贊」となり、後藤昭雄氏が指摘された平安朝漢詩文の《讚の系譜》につながってゆく。後藤氏は日本の「贊（讚）」の初例は大同元年（八〇六）空海将来「真言五祖師像」とされるが、人物の像贊は、八世紀後半の大安寺三碑『南天竺婆羅門僧正碑并序』に溯る。第二に、題画詩の問題である。青木正児氏は、中国・戦国時代に発祥した題画文学を四分類（韻文：画讚・題画詩、散文：題画記・画跋）して示された。日本における題画詩の初例は、嵯峨天皇による正倉院法華山水画屏風を天台山図に見立て、『文選』『遊天台山賦』五臣注に依拠した『文華秀麗集』『冷然院各賦一物』詩群に溯る。肖像の「贊」と題画詩は融合して《伝・贊と肖像の東アジア文化史》を形成し、和漢の障屏詩・屏風歌をはじめ、中世以降の禪を経て、掛物としても普及した禅画・俳画等、多様な展開を遂げる。そこには同朋衆がになった東山文化のさまざまな芸道、五山文学が介在する。江戸後期、曲亭馬琴撰『南総里見八犬伝』の《八犬士の伝・贊と肖像》はその達成点と位置づけられよう。第三に、近世の茶道絵入り百科事典『茶譜』には「墨蹟」の項が立てられ、先行する茶書や茶人の言を数多く引用する。「茶禅一味」は武野紹鷗の「肖像」に大林宗套が付した「贊」が最初期の例とされており、「伝・贊と肖像」の文化史にあって、禪と茶の湯の関係は重要である。第三に、文学と絵画の関係論において、出典論と翻訳論は表裏一体をなし、両者の関係を分析する上で有効である。イタリア・フランスとの共同研究と国際シンポジウムを開催した。2020年2月17日ナポリ東洋大学国際シンポジウム「古代の伝と古辞書の展開 文字資料と絵画資料の出逢い」、2月19日フィレンツェ大学日仏伊共同国際シンポジウム「日本文学の形象：絵と文の交わる場所」、パリ国際大学都市日本館日仏伊共同国際シンポジウム2月21日「茶の湯・香と座の文芸 江戸の絵入り百科事典『茶譜』の世界」、2月22日「日本文化における題画文学 伝・贊と肖像の文学史」第1部『南総里見八犬伝』の伝・贊と肖像、第2部「日本文化における伝・贊と肖像」である。『唐大和上東征伝』『南天竺婆羅門僧正碑并序』注釈を英訳し、肖像・画像と文学の交流について広く国内外に発信した。国際シンポジウム報告書は、『水門一言葉と歴史』第30号（2021年6月刊行予定）に掲載予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 44
2. 論文標題 平成三十年度六月例会シンポジウム《冥界》というもうひとつの世界 『日本霊異記』の国家観と歴史叙述ー」シンポジウム総括	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 96-10
2. 論文標題 書評・山田純著『日本書紀』典拠論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安保博史・藏中しのぶ	4. 巻 29
2. 論文標題 古辞書と近世絵入り百科事典	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 水門 言葉と歴史ー	6. 最初と最後の頁 109-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 19
2. 論文標題 八犬子・八犬仙の賛と肖像ー『南総里見八犬伝』と白隠「布袋図」「地獄大菩薩」の意匠 附、犬飼見八と旃陀羅ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東アジア比較文化研究	6. 最初と最後の頁 85-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 43
2. 論文標題 古代寺院における「伝」と「肖像」の制作活動 大安寺の三つの 碑	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 pp.5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 172
2. 論文標題 秋田實と宝塚新芸座 国民劇に漫才を！	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪春秋	6. 最初と最後の頁 pp.48-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ・楊田麗	4. 巻 11(上)
2. 論文標題 「茶を点つる時、亭主の座り方」と古田織部流・金森宗和流	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『茶譜』注釈 卷十一(上)	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 2
2. 論文標題 氏族の伝・国家の伝・寺院の伝 - 「大安寺文化圏」成立以前の僧伝 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古代文学と隣接諸学第2巻『古代の文化圏とネットワーク』	6. 最初と最後の頁 pp356-380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 704号
2. 論文標題 古代寺院における「伝」と「像」の制作活動 長安と平城京の諸寺院間ネットワーク	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 pp37-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 1
2. 論文標題 渡来僧の運命－玄奘三蔵の觀相説話－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和漢比較文学会第10回西安特別例会予稿集	6. 最初と最後の頁 pp24-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 28号
2. 論文標題 『和漢朗詠集』絵入り版本と『俳諧類船集』－付合語における縦題と古典回帰－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 水門－言葉と歴史－	6. 最初と最後の頁 pp39-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 42号
2. 論文標題 古代寺院における「伝」と「像」の制作活動 大安寺の三つの碑－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 pp5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 27
2. 論文標題 犬坂毛野の「賛」と「肖像」 『南総里見八犬伝』第六輯巻頭口絵・役者絵 の表象	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 水門一言葉と歴史	6. 最初と最後の頁 pp60-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 207
2. 論文標題 女田楽・旦開野の「賛」と「肖像」 『南総里見八犬伝』第六輯巻頭口絵の「兔」と「雀」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東洋研究	6. 最初と最後の頁 pp73-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藏中しのぶ	4. 巻 218
2. 論文標題 『南天竺婆羅門僧正碑并序』の沈黙 菩提僊那の「阿弥陀浄土」と光明皇太后 追善事業	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文学・語学	6. 最初と最後の頁 pp35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計55件 (うち招待講演 26件 / うち国際学会 19件)

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 海外における日本古典文学教材の開発 - 『なぞり書き百人一首』 翻訳 -
3. 学会等名 翻訳論出典論研究会第10回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 『箋注倭名類聚抄』巻第一「陽鳥」
3. 学会等名 『箋注倭名類聚抄』研究会第5・6・7回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 「ドンブラコ」の出典と翻案 - 近代日本の『桃太郎』鬼退治の意義 -
3. 学会等名 翻訳論出典論研究会第11回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ、オレグ・プリミアーニ
2. 発表標題 『百人一首』の翻訳
3. 学会等名 翻訳論出典論 研究会第12回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 大安寺三碑・三高僧伝と檀像彫刻 「道セン碑文」 『南天竺婆羅門僧正碑并序』 『大安寺碑文』 『故僧正勤操大徳影讃并序』
3. 学会等名 水門の会国際シンポジウム「翻訳・出典のクロス・メディアー伝と肖像の翻訳出典論」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日中交流の象徴「鑑真和上」の誕生 井上靖『天平の甍』と安藤更正・山本健吉
3. 学会等名 井上靖研究会令和元年度冬季研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 八犬士の伝・賛と肖像 《伝・賛と肖像》の東アジア文化史の視座から
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議日本支部例会「東アジアのネットワークと日本の近世」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 百人一首をいける
3. 学会等名 いけばなの根源・池坊 伝統の美を現代の暮らしのな かに 高橋華風社中展(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日本舞踊と古典学
3. 学会等名 第2回まゆの会特別講演(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日本の古代信仰と芸能
3. 学会等名 日本文化学会AI・2019年度夏季大会「伝・物語と口承文学」パネルディスカッション（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 古代寺院における「伝」と「仏像」制作のネットワーク
3. 学会等名 日本文化学会AI 2019 年度夏季大会「伝・物語と口承文学」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 越中と大伴家持 宴と花
3. 学会等名 富山県・高志の国文学館「高校生のための令和 万葉塾」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日本における伝記文学の成立－奈良時代の高僧伝と肖像彫刻－
3. 学会等名 ナポリ東洋 大学国際シンポジウム「古代の伝と古辞書の展開－文字資料と絵画資料の出逢 い－」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日本文学における伝・賛と肖像
3. 学会等名 フィレンツェ大学日仏伊共同シンポジウム「日本文学の形象：絵と文の交わる場所」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 茶の湯・香と座の文芸－江戸の絵入り百科事典と『茶譜』の世界－
3. 学会等名 パリ国際大学都市日仏伊共同国際シンポジウム「茶の湯・香と座の文芸－江戸の絵入り百科事典と『茶譜』の世界」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 伝・賛と肖像の文学史と『南総里見八犬伝』
3. 学会等名 パリ国際大学都市日仏伊共同国際シンポジウム「日本文化における題画文学 - 伝・賛と肖像の文学史」第一部「『南総里見八犬伝』の伝・賛と肖像」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 伝・賛と肖像の文学史の構築にむけて－古代から近代の題画文学と絵入り百科事典－
3. 学会等名 パリ国際大学都市日仏伊共同国際シンポジウム「日本文化における題画文学 - 伝・賛と肖像の文学史」第一部「日本文化における伝・賛と肖像」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 東アジアにおける伝・賛と肖像の展開 伝記文学と題画文学の融合
3. 学会等名 フランス国立高等研究院講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 大伴家持と聖武天皇
3. 学会等名 高志の国文学館「大伴家持生誕1300年記念連続講演（招待講演）」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 宮沢賢治作・ますむらひろし画『オツベルと象』の翻訳出典研究
3. 学会等名 水門の会翻訳論出典論研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ・吉田慶子
2. 発表標題 宮沢賢治作・ますむらひろし画『洞熊学校を卒業した三人』『オツベルと象』
3. 学会等名 水門の会翻訳論出典論研究会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ・三田明弘・山口敦史・渡部亮一
2. 発表標題 《冥界》というもうひとつの世界 『日本 靈異記』の国家観と歴史叙述一
3. 学会等名 仏教文学会6月例会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ・マリア・キアラ・ミリオーレ・オレグ・プリミアニ
2. 発表標題 『大安寺碑文』翻訳
3. 学会等名 水門の会翻訳論出典論研究会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日本舞踊と古典学・謡曲から日本舞踊へー西行法師の夢のあと一
3. 学会等名 第1回まゆの会特別講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 犬坂毛野と傀儡子、犬村角太郎と獅子ー竹田からくり『石橋』『船弁慶』と『南 総里見八犬伝』口絵賛の意匠一
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議三国合同日本大会分科会発表会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 近世絵画で楽しむ『南総里見八犬伝』－第六輯の口絵と挿絵を楽しむ・犬坂 毛野と傀儡師－
3. 学会等名 第102回企画展「『南総里見八犬伝』と群馬#浮世絵#絵草紙 #ジュサプロー人形コラボレーション企画」ディスカッション（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 「笑い」と「座」の文芸－宝塚新芸座と新人会－
3. 学会等名 関西大学なにわ文化研究 センター「座の文芸－宝塚歌劇と上方の笑い－」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 海外における日本古典教材の開発－『なぞり書き百人一首』翻訳プロジェクトについて－
3. 学会等名 水門の会翻訳論出典論研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 海外における日本古典文学教材の開発－『なぞり書き百人一首』翻訳・1天智 天皇－
3. 学会等名 水門の会翻訳論出典論研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 古代寺院における「伝」と「肖像」の制作活動 菩提僊那と鑑真
3. 学会等名 仏教文学会4月例会シンポジウム「奈良時代の高僧の「伝」と「肖像」 古代 から中世へ 」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 渡来僧の運命 - 玄奘三蔵の觀相説話
3. 学会等名 和漢比較文学会第10回西安特別例会セッション8「運命」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 犬村角太郎の「伝」と「肖像」
3. 学会等名 第9回「東西文化の融合」国際シンポジウ ム「異類妖怪と芸能の東西」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 奈良時代の高僧伝
3. 学会等名 広域古典研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 宮沢賢治『洞熊学校を卒業した三人』『オツベルと象』の翻訳と出典—仏教文 学をどう翻訳するか—
3. 学会等名 翻訳論出典論研究会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 『南総里見八犬伝』の異類婚姻譚—「畜生道に堕ちる」という論理
3. 学会等名 「知古鑑今文本研究会」日台合同学会第3回大会・日本文化研究会AI第32回例会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 Classic Literature as the Origin of Cont Phnom Penh University emporary Japanese Culture
3. 学会等名 カンボジア王立プノンベン大学招聘講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 "Cool Japan" and Japanese Studies
3. 学会等名 カンボジア・STUDENT DEVLEOPMENT INSTITUTE 招聘講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 『茶譜』巻十の問題点と巻十一の課題
3. 学会等名 「茶の湯と座の文芸」研究班研究協議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 『南総里見八犬伝』第六輯口絵と外記節復活—十世杵屋六左衛門の『傀儡師』『外記猿』『石橋』—
3. 学会等名 水門の会『南総里見八犬伝』研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 大伴家持と聖武天皇
3. 学会等名 高志の国文学館・大伴家持生誕1300年記念。連続講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 犬坂毛野の「伝」と「肖像」 『南総里見八犬伝』第六輯巻頭口絵の意匠
3. 学会等名 第13回東アジア比較文化国際会議・国際学術大会「東アジアと多文化」（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 犬坂毛野と役者絵 『南総里見八犬伝』第六輯口絵攷
3. 学会等名 水門の会神戸例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 女田楽・旦那野(犬坂毛野)と傀儡子
3. 学会等名 日本文学協会中世部会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 犬坂毛野の「伝」と「肖像」
3. 学会等名 第8回「東西文化の融合」国際シンポジウム「傀儡子と観相(人相占い)の東西」(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 魚籃観音追考
3. 学会等名 和漢比較文学会東部例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 『八犬伝』の観相表現・続
3. 学会等名 学融合研究事業・萌芽的研究会「観相学・観相 資料の総合的・学融合的研究準備会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 『和漢朗詠集』絵入り版本と季語
3. 学会等名 第4回「水門の会」国際シンポジウム「季語の生成と四季意識 東アジアから世界へ -」（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 南都仏教の諸問題 - 鑑真の仏舍利 -
3. 学会等名 広域古典研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日本の伝記と大安寺 - 日本の伝記文学は、大安寺で生まれた
3. 学会等名 大安寺歴史講座Ver.4第3回（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 日本文化の源流としてのインド
3. 学会等名 全国大学国語国文学会第113回 大会・全国大学国語国文学会学会創立60周年記念大会シンポジウム「日本とインド - 文明における固有と普遍」、 「日本とインドを結ぶ 交流の過去・現在・未来」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 鑑真の「伝」と「肖像」 天平時代の仏像と伝記文学
3. 学会等名 中国・中山大学学術講演会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 鑑真の「伝」と「肖像」 天平時代の仏像と伝記文学
3. 学会等名 中国・広東科学技術師範大学学術講演会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 Origin of india-japan cultural Relations:A visit of bodhisena,a monk from india to Japan
3. 学会等名 インド・ラビンドラー・パーラティ大学学術講演会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 Origin of india-japan cultural Relations:A visit of bodhisena,a monk from india to Japan
3. 学会等名 インド・ビシュバ・パーラティ大学学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藏中しのぶ
2. 発表標題 Origin of india-japan cultural Relations:A visit of bodhisena,a monk from india to Japan
3. 学会等名 The Asiatic Society（アジア協会）学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 藏中しのぶ編、相田満・安保博史・オレグ・プリミアニー・菅野友巳・藏田明子・笹生美貴子・高木ゆみ子・布村浩一・フレデリック・ジラルル・松本公一・三田明広・矢ヶ崎善太郎共著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 220
3. 書名 『茶譜』巻十一（下）注釈	

1. 著者名 中林史朗・芦川敏彦・藏中しのぶ・小塚由博・関清孝・田中良明・中林史朗・成田守・浜口俊裕・日吉盛幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 78
3. 書名 藝文類聚（巻48）訓読付索引	

1. 著者名 牧角悦子・町泉寿郎・市來津由彦・渡邊義浩・藏中しのぶ・五月女肇志・植木朝子・江静・湯浅佳子・古田島洋介・奥村佳代子・楊爽・佐藤賢一・城崎陽子・江藤茂博・五井信・山口直孝・瀧田浩・平崎真右	4. 発行年 2019年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 255
3. 書名 「講座・近代日本と漢学」第一巻『漢学という視座』第 部日本文学史と中国古典「上代文学と中国古典」	

1. 著者名 日本思想史事典編集委員会編・日本思想史学会編集協力	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 744
3. 書名 日本思想史事典	

1. 著者名 小口雅史編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 410
3. 書名 古代東アジア史料論	

1. 著者名 木本好信編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 845
3. 書名 古代史論聚	

1. 著者名 藏中しのぶ監修・高城弘一書	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京書店	5. 総ページ数 1-223
3. 書名 なぞり書き百人一首	

1. 著者名 藏中しのぶ編、相田満・安保博史・オレグ・プリミアニー・菅野友巳・蔵田明子・笹生美貴子・高木ゆみ子・布村浩一・フレデリック・ジラルル・松本公一・三田明広・矢ヶ崎善太郎共著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 1-298
3. 書名 『茶譜』巻十一（上）注釈	

1. 著者名 大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班・代表 中林史朗、芦川敏彦・蔵中しのぶ・小塚由博・関清孝・田中良明・中林史朗・成田守・浜口俊裕・日吉盛幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 1-43、1-38
3. 書名 藝文類聚（巻47）訓読付索引	

1. 著者名 藏中しのぶ編前田耕作・落合俊典・石見清裕・金田章裕・梶川信行・鈴木貞美・荻原千鶴・北川和秀・大石泰夫・十川陽一・石上英一・中田美絵・吉田一彦・蔵中しのぶ・藤本誠・富樫進・平舘英子・鉄野昌弘 高松寿夫・小松（小川）靖彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 pp1-560
3. 書名 古代文学と隣接諸学 第2巻『古代の文化圏とネットワーク』	

1. 著者名 藏中しのぶ編、大東文化大学東洋研究所「茶の湯と座の文芸」研究班：相田満・安保博史・オレグ・プリミアニー・菅野友巳・蔵田明子・笹生美貴子・高木ゆみ子・布村浩一・フレデリック・ジラルル・松本公一・三田明広・矢ヶ崎善太郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 pp1-239
3. 書名 茶譜巻十注釈	

1. 著者名 大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班：代表 中林史朗、芦川敏彦・蔵 中しのぶ・小塚由博・関清孝・田中良明・中林史朗・成田守・浜口俊裕・日吉盛 幸・福田俊昭	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 pp1-58, pp1-36
3. 書名 藝文類聚 (巻46) 訓読付索引	

1. 著者名 藏中しのぶ編、相田満・安保博史・フレデリック・ジラルル・高木ゆみ子・三田明広、矢ヶ崎善太郎共著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 298
3. 書名 『茶譜』巻九注釈	

1. 著者名 代表 中林史朗、芦川敏彦・蔵 中しのぶ・小塚由博・関清孝・田中良明・中林史朗・成田守・浜口俊裕・日吉盛 幸・福田俊昭共著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大東文化大学東洋研究所	5. 総ページ数 94
3. 書名 藝文類聚 (巻45) 訓読付索引	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 第8回「東西文化の融合」国際シンポジウム「傀儡子と観相（人相占い）の東西」	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 第4回「水門の会」国際シンポジウム「季語の生成と四季意識 東アジアから世界へ - 」	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 第3回「知古鑑今文本文研究会」日台合同学会大会・第32回日本文化研究会AI例会	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 ナポリ東洋大学国際シンポジウム「古代の伝と古辞書の展開 文字資料と絵画資料の出会い」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 フィレンツェ大学日仏伊共同国際シンポジウム「日本文学の形象：絵と文の交わるころ」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 パリ国際大学都市日本館日仏伊共同国際シンポジウム「茶の湯・香と座の文芸 江戸の絵入り百科事典『茶譜』の世界」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 パリ国際大学都市日本館日仏伊共同国際シンポジウム「日本文化における題画文学 伝・賛と肖像の文学史」	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	ナポリ東洋大学	フィレンツェ大学	サレント大学	
フランス	フランス国立高等研究院	極東学院	パリ国際学術都市日本館	他1機関
スウェーデン	ヨーデボレ大学			
その他の国・地域	台湾政治大学			
インド	ヴィシュヴァ・パラティー大学	ラピンドラー・パーラティ大学	The Asiatic Society (アジア協会)	
カンボジア	王立プノンペン大学	STUDENT DEVELOPMENT INSTITUTE		
中国	中山大学	広東科学技術師範大学	広州工業大学	